

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	多可町	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	多可町文化遺産を活用した地域活性化プラン		【計画の改善時期】 平成 年度
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
多可町文化財悉皆調査・活用計画（H18策定）、多可町歴史街道事業推進計画（H21策定）、杉原紙振興計画（H26）に基づき、町内に残された文化遺産を多角的に調査、普及・啓発、活用していくことにより、地域への愛着や誇りを醸成するとともに、次世代への継承、発展を促し、観光資源としての活用により、地域コミュニティの活性化を図る体制を目指す。			
6 実施体制			
多可町が本実施計画に係る全体の企画・調整、各補助事業に係る指導を行う。主な担当課、役割は下記の通り。 ・教育委員会教育総務課：各補助事業における文化財の取り扱いに関する指導、調整 ・地域振興課：歴史遺産を活用した地域振興、観光業務に関する連携等 また、補助事業は次の団体が実施する。 多可町文化遺産活用実行委員会 構成団体（多可町、多可町観光交流協会、多可町歴史街道推進協議会、多可ふれあいボランティアガイド、杉原紙保存会、曽我井屋台保存会 播州歌舞伎保存会）			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 2,059 千円	平成30年度申請額： 2,346 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
急激な少子高齢化等による人口減が進む中、行政と住民が一体となって当事業を進めていくことにより、杉原紙をはじめとする地域に残る文化遺産が、地域の誇りであることの認識を深め、郷土愛を醸成する。さらに、次世代へ積極的に継承していく意識を浸透させることにより、『私たちのまちは、私たち一人一人が創る』という基本姿勢を形成し、地域コミュニティ力や地域の絆を強化し、人口減少に負けない町づくりに資する。また、多様な魅力ある歴史文化遺産資源を活かした町づくりを行うことで、観光交流人口の増加につなげ、地域活性化の一助とする。			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	多可町内文化遺産悉皆調査 多可町内の文化遺産について、各文化財分野ごとに計画的に悉皆調査を実施。		
事業概要：	文化遺産の案内看板設置 町内文化遺産の案内看板を計画的に設置		
事業概要：	多可ふれあいボランティアガイドの人財育成 講師による研修、他地区の視察等、ガイドの資質の向上行う。		
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
歴史文化基本構想については、現在行っている悉皆調査を計画的に進め、平成31～32年度を目途に策定を目指す。歴史文化基本構想については、第2次多可町総合計画（H29～H38）のなかでも策定計画をあげている。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	多可町教育委員会 教育委総務課 那珂ふれあい館		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流				
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 1 :	ボランティアガイドの案内者数	関連事業:	①・②・⑤		
目標値 1 :	【現状値】 平成 28 年度 2,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 2,200 人				
設定根拠 1 :	多可町の観光客数目標がH28年度115万人で、H33年度には126万5千人を目標としており、毎年102%の伸び率を目指していることから、毎年度の伸び率を102%に設定。				
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
2,000 人	1,800 人	人	人	人	人
0%	-100%				
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流				
評価指標区分 2 :	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 2 :	和紙の里 杉原紙研究所 来館者数	関連事業:	③・④		
目標値 2 :	【現状値】 平成 28 年度 10,300 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 11,400 人				
設定根拠 2 :	多可町の観光客数目標がH28年度115万人で、H33年度には126万5千人を目標としており、毎年102%の伸び率を目指していることから、毎年度の伸び率を102%に設定。				
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
10,300 人	10,500 人	人	人	人	人
0%	18%				
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立				
評価指標区分 3 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 3 :	伝統文化保存会の団体数	関連事業:	⑥・⑦		
目標値 3 :	【現状値】 平成 28 年度 1 団体 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 6 団体				
設定根拠 3 :	現在各地域で行われている伝統行事は、過疎化、高齢化の進行により、保存、継承が困難となりつつあるため、保存会を結成し、組織的な保存・継承活動に取り組む。				
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
1 団体	1 団体	団体	団体	団体	団体
0%	0%				
目標区分 4 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化				
評価指標区分 4 :	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 4 :	郷土の歴史学習の拠点 那珂ふれあい館 利用者数	関連事業:	⑤		
目標値 4 :	【現状値】 平成 28 年度 10,047 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 11,200 人				
設定根拠 4 :	多可町の観光客数目標がH28年度115万人で、H33年度には126万5千人を目標としており、毎年102%の伸び率を目指していることから、毎年度の伸び率を102%に設定。				
進捗状況 4 :	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
10,047 人	9,400 人	人	人	人	人
0%	-56%				

様式 1 - 1 別紙②

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	ボランティアガイド育成事業					実施団体：	多可ふれあいボランティアガイド				
事業区分：	人材育成					事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	地域の文化遺産を総合的に紹介できる観光ボランティアガイドの養成、資質の向上を図る。										
評価指標区分：	・ボランティアガイド利用者数					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	ボランティアガイド 案内者数										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 2,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 2,200 人										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度						
2,000 人	1,800 人	人	人	人	人						
0%	-100%										
事業②：	多可町文化遺産セミナー・シンポジウム					実施団体：	多可町文化遺産活用実行委員会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 30 年度				
事業概要：	継続的に行っている文化遺産悉皆調査で得られた成果を活用し、地域の文化遺産に関するセミナーやシンポジウムを開催し、歴史文化遺産への認識を深め、保存、継承の意識を高める。										
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	セミナーを郷土歴史学習の契機として、拠点施設である那珂ふれあい館への来館者増を目指す。										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 10,047 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 11,200 人										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度						
10,047 人	940 人	人	人	人	人						
0%	-790%										
事業③：	地域の文化遺産を活かした講座の開催					実施団体：	多可町文化遺産活用実行委員会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	多可町が発祥地であり、地域の代表的な歴史遺産でもある「杉原紙」についての歴史、技術、利活用を学ぶ講座を開催。「杉原紙にかかわる機会」を作り出すことで杉原紙を『知る機会』を提供し、さらには後継者としての人材を発掘する。										
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	杉原紙に触れる機会を創出、情報発信することにより、その拠点である杉原紙の里杉原紙研究所への来館者を増やし、紙漉体験者の増を目指す。										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 1,865 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 2,060 人										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度						
1,865 人	1,750 人	人	人	人	人						
0%	-59%										

事業④：杉原紙総合調査事業			実施団体：多可町文化遺産活用実行委員会		
事業区分：調査研究			事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 30 年度		
事業概要：多可町を発祥地とする杉原紙は、現在、その歴史的定義が明確であるとは言えない状況にあり、歴史的、技術的、民俗的な調査を行い、その実態を明らかにし、そのデータを、技術継承、普及啓発、後継者育成に活用するとともに、広く町外へ情報発信していく。					
評価指標区分：・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：杉原紙研究所 来館者数					
目標値：【現状値】 平成 28 年度 10,300 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 11,400 人					
進捗状況：各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
10,300 人	10,500 人	人	人	人	人
0%	18%				
事業⑤：多可町文化遺産悉皆調査事業			実施団体：多可町文化遺産活用実行委員会		
事業区分：調査研究			事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：継続的に町内文化遺産の悉皆調査を分野ごとに行い、そのデータベース、報告書を作成し、地域に残る歴史遺産の再認識、再発見など、普及啓発に活用するとともに、地域への愛着を醸成する。					
評価指標区分：・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：セミナーを郷土歴史学習の契機として、拠点施設である那珂ふれあい館への来館者増を目指す。					
目標値：【現状値】 平成 28 年度 10,047 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 11,200 人					
進捗状況：各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
10,047 人	9,400 人	人	人	人	人
0%	-56%				
事業⑥：伝統文化基盤整備事業			実施団体：曽我井屋台保存会		
事業区分：用具等整備			事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：地域に残る伝統文化を継承していくため、伝統行事に使用する用具等を計画的に整備し、併せて、伝統文化の普及啓発に努め、地域の伝統文化の保存、継承を行っていく。					
評価指標区分：・保存会会員数の変化（維持）			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：・保存会会員数の変化（維持）					
目標値：【現状値】 平成 28 年度 60 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 60 人					
進捗状況：各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
60 人	60 人	人	人	人	人
#DIV/0!	#DIV/0!				

事業⑦： 伝統文化基盤整備事業		実施団体： 播州歌舞伎保存会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	多可町の誇る伝統芸能「播州歌舞伎」の継承のため、公演に使用する衣装やカツラ等の用具を整備する。また、公演活動を充実させ、継承活動とともに後継者の育成に取り組むことで伝統芸能の継承及び保存発展を行なっていく。				
評価指標区分：	・ 保存会会員数の変化（維持）		（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	保存会会員数				
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 15 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 15 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
15 人	人	人	人	人	人
#DIV/0!					